



森ボラ 通信

森の守護神

第51号 2006年8月20日発行

N P O 法 人 北 海 道 森 林 ボ ラ ン テ ィ ア 協 会

札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F

Tel:241-8155 Fax:241-8308

E-mail:h-shinrin-v@indigo.plala.or.jp

URL:<http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>

■トピックス

◆ 天売、焼尻の旅 北限の杉

おぼつかない記憶と地図を手に迷いつつたどり着きましたが、着いてみれば案内標識はやはりないほうがいかにも隠し美林をたずねる旅でした。1915年に種を蒔いたそうで90年生あまりだがまだまだ先端は三角形に見えました。

その杉林はきれいに下刈りされていて、それも樹幹についたツルアジサイらしき蔦は切られず残されていた。北限の杉保存の心配りが伝わりました。

羽幌町築別の新宮商行「北海道の名木美林」北限の杉林を見に行くことになって、30年たってどんなにか太く大きくなっているかと期待しました。また隣の広葉樹林の鬱蒼としていた林がいまどんなになっているか少年のように期待しました。しかし現実には年に2ミリ位しか太らない北限の杉は30年で6センチほど太っただけでした。

子供のころに命がけで川に飛び込んだ大きな岩がいま見るとほんの背丈ほどの高さです。私の妄想は飛び込み岩そのものでした。(酒井 記)



天売・焼尻島の森林と水

天売、焼尻島で見学したことの一つに、「両島の森林の状況と水の関係」に関することがあります。両島は地形も地質も似ており、基礎的な自然条件は変わらないのに、天売島は漁業用の薪などのために伐採されて森林が無くなり、水源涵養機能が衰え、島民が生活するための水も不足して、昭和40年代には渇水期に自衛隊にも出動してもらい、羽幌から水を運んだという歴史があります。

一方、焼尻島には島の面積の1/5に相当する約100haの自然林が残っており、水不足で島民が困ったという歴史は無いとのこと。

天売島では、昭和30年代から森林造成が始まり、試行錯誤を続けた結果、40年代から軌道にのりはじめました。現在は集落のある島の南東側は林令30~40年位の森林に覆われ、水源涵養機能が回復しつつあり、水不足は無いようです。宿泊した民宿でも風呂、シャワー、水洗トイレがあり、森林の回復とともに水不足の歴史も過去のものになっているようです。しかし、島の北西側はまだ森林が回復していない状況が船からもよく判りましたし、天売港の左手に見える滝も水が落下しておらず、常時滝水が見られるようになるためには、まだ相当の年月が必要だと思われます。



焼尻島の天然林は集落のある島の東側にあります。イチイ(オンコ)が非常に多く、ミズナラ、イタヤカエデ、カンバなどが混交し、強風のために樹高は高くありませんが、大径木も混じり、国の天然記念物にもなっている森林です。天狗が棲んでいて、そのために森林が伐られずに残ったとの伝説もあるようで、珍しいものとしてはアカエゾマツの超大径木(直径80cm位か)がありました。

また、海岸に面した斜面には、「オンコの荘」と呼ばれているオンコが強い風のために上ではなく横に伸びて、数本で径10m、高さ2~3mの塊りをつくっているものなどがありました。

役場支所の裏の「会津藩士の墓所」のある入り口から入り、帰りの船の時間の都合もあって1時間程度の林内散策でしたが、とても島にいるとは思えない森林の散策でした。

焼尻島も島の中央から北西側にかけては、過去に森林が伐採されており、現在森林の造成が行なわれています。(棟方 記)

天売の鳥たち

ウトウの帰巢見物が天売島の観光の目玉であることは有名ですが、聞きしに勝る光景でした。天売島のコロニーは **30~40** 万羽が営巣繁殖するようですが、日暮れ間もなく一斉に帰巢してきます。図体にくらべて翼の面積が小さく早いテンポの羽ばたきで、風をきる飛翔音とともに薄暮の空をバックに鳥影が次から次に低空で視界をよぎります。この時期人丈よりも高く伸び密生したオオイタドリの藪にバサバサと突入します。そこいらじゅうでその音がします。イタドリの藪の中は暗闇です。夜目が利くにちがいありません。ヒナに与える小魚を嘴いっぱいに咥えてくるのが知られていますが、この時期巣立ち間近なこともあって、咥えてもどった親鳥は確認できませんでした。チドリ目ウミスズメ科、体長 **38cm**、漢字表記「善知鳥」。オオセグロカモメにヒナへの餌を略奪される光景もテレビ等で有名ですが、オオイタドリが剥ぎ取られたほんの一部分の現象であることもよくわかりました。

羽幌からのフェリーの甲板に上がって見渡しますと、海面すれすれに列状に群れ飛ぶ水鳥たちがあちらこちらと目につきます。大型のウミウはすぐ識別できますがこれはペリカン目ウ科です。ウミスズメ科で最大のウミガラス(オロロン鳥)はデコイしか見られませんでした。中型のウトウ、ケイマフリさらに小型のウミスズメがいるようでした。体形と羽ばたきかたがツバメを思わせるウミツバメも単独的に時々目にはいます。焼尻島に接近するにつれてオオセグロカモメとウミネコをはじめとして海鳥たちの密度が濃くなってきます。鳥たちの数の多さからこの海域の豊饒さがよくわかります。

天売島の案内図にノゴマの丘とかベニマシコ原野、クロツグミの森、シロハラ原の森等々陸鳥たちも豊富であることがうかがわれますが、今回は陸鳥ではウグイス(声のみ)、ムクドリ、ハクセキレイ、エゾセンニュウ(声のみ)。アカゲラ、イソヒヨドリが確認できました。(高野 記)



◆ 澄川のゴミ出し

7月29日(土)参加会員 **13** 名。札幌市澄川都市環境緑地の広場で、当ボランティア協会 **13** 名のメンバーの待つ中、黒塗りのドイツの高級乗用車で三井住友海上火災(株)の **3** 名の方々が到着した。自己紹介・作業説明・注意事項の後、森林内の不法投棄ゴミ拾い作業に入る。一年ぶりの作業ではあるが、年々少しずつ減っているとはいえ今年もゴミの種類は多彩である。ドラム缶、テレビ、保冷庫、布団、毛布、絨毯、雑誌等。小さい物より大きい物が多かったので、チルホールが威力を発揮する。引き上げた絨毯の折り目の隙間に蜂の巣があり、あやうく刺されるところでした。アシナガバチより少し大きめで黒っぽかったのでクロスズメバチかと思われる。三井住友さんの方々も、慣れないながらも一所懸命さが額の汗に輝く。ゴミ出し作業は午前中で終了する。

昼食は青空の下、おにぎりを頬張りながら、ボランティアのこと、環境のことを語りあい交流の輪を広げあう。

午後からは新しくつけた作業道をたどり森林浴をしながら探勝し、**14** 時解散する。

最初広場に現れた黒塗りの高級乗用車は、若干の違和感を感じたが、作業を終え、次回の交流を約して広場を立ち去る黒塗りの乗用車は、緑に溶け込み頼もしく見えたのは気のせいだろうか。出来れば次回はもっと仲間を増やし、森を楽しむに来て欲しいものである。(山中 記)



◆ 北海道神宮との打合せ

8月17日(木)作業の前に神宮側窓口壁谷神主と打合せを行いました。8月14日の幹事会で芝幹事が他事多忙につき幹事および神宮・林檎園窓口辞退を申し出られたにつき、後任の荻田幹事の紹介の方々、酒井代表幹事、高野の **4** 人で訪問。以下の事項について確認されました。

- ① 側域林(神社庁裏)にイチイ(玉串採集用)の植林を行うための地拵えに入る。ニセアカシヤ、シンジュ等の外来植物は除去し根絶を期す。
- ② 神宮山(広域)の巨木調査の提案と **GPS** 購入願いは「わかりました」の返答をいただく。具体化について

ては再度確認の上進行する。

- ③ 神宮山「奥宮」整備は調整進まず、当面作業は先送りとする。
- ④ 賛助会員加入のお願い。

■今月の幹事会

- 8月14日(月)出席者：荻田、酒井、芝、杉本、高野、西野、棟方、山中、和田
- 1 トラベルプラン(旅行会社)からの提案→積極姿勢で受け入れる
- 2 都市緑化基金助成金申請
コンサの森づくり作製支援→事務局で対応
澄川のサクラ並木→澄川ホテルを含め環境整備で提出
- 3 北海道神宮今後の方向
巨木調査の承認と必要機材調達→担当者交代 芝→荻田 近々似神宮側と調整する
- 4 会員例会 9月6日 リンケージプラザ 13時30分～→天売・焼尻、ヒグマ対策等ビデオで勉強
- 5 10月作業計画→9月スケジュール一部変更(作業参加申込の再度チェック)
有明第二では補色および野幌で使用する標識竹の採集
木工チームの芸術の森出店準備を加える
- 6 セブンイレブン支笏湖植樹協力 9月23日 キャンプ詳細→植樹の他キノコ料理(湯澤)
- 7 ボラ通8月号記事 天売・焼尻紀行記事担当
北限の杉(酒井)、天売島の鳥(高野)、焼尻の森(棟方)、澄川ゴミ出し(山中)
- 8 会員の動向
退会者：阿部雪絵、岩崎幹郎、鎌田俊美、高橋伸子、竹田弘、田中莞二、田中孝子、
松村清松、真鍋京子、丸藤尚之、山岸由紀 以上11名
休会者：新田啓子、福田紀之
入会者：4月以降 7名
- 10 その他
宮脇昭横浜国立大学名誉教授講演会→幹事聴講希望者申込 6名

■おしらせ

◆会員例会のお知らせ

日時：9月6日(水)13時30分から
場所：リンケージプラザ
ビデオ：天売・焼尻の森林と水資源、ヒグマの話

◆芸術の森アートマーケット、木工作品出展・販売

日時：9月17日(日)、10時開店
場所：札幌芸術の森

◆宮脇昭横浜国立大学名誉教授講演会

「本物の森を作ろう」
日時：8月26日(土)11:00～12:00
場所：北海道経済センター8階Aホール
(札幌商工会議所)

参加費無料
定員200名(超過の場合は抽選)
申込：TEL011-222-4894
Fax011-222-4894



ヤナギ粗朶護岸(真駒内川)の発芽

◆セブンイレブン支笏湖植樹協力のキャンプのお知らせ

- 植樹日 9月23日(土 秋分の日)、24日(日)
- 宿泊場所 支笏湖モーラップキャンプ場
常設テント(5人用×4張り)
- 費用 2500円～3000円(見込み)
- 申込 事務局(241-8155)、)山中、柴田

■活動履歴

活動日	場所	参加人数	活動内容
8/18	北海道神宮	6	側域林整備
8/17	北海道神宮	14	製材、側域林整備
8/14	金市館	9	幹事会
8/10	北海道神宮	7	針葉樹枝打ち、ニセアカシヤ除去
8/9	北海道神宮	10	製材・針葉樹枝打ち、ニセアカシヤ除去
8/4	藻岩国有林	9	間伐
8/3	藻岩国有林	10	間伐
7/29	澄川	13+3	不法投棄ゴミ拾い、歩道整備、
7/28	澄川	15	歩道整備、除伐
7/27	野幌国有林	6	下刈り
7/26	野幌国有林	9	下刈り
7/26	サッカーアミューズメントパーク	6	植樹補強
7/24、25	天売・焼尻	20	研修旅行
7/21	杉本邸	12	木工
リンゴ園	7/21、25 摘果作業	8月は作業なし	

■ひとこま

◆ 澄川のホタル

キノコ沢で懐中電灯を消した瞬間、ハッとしました。淡い光の点滅が、群れて漂いながら動いています。じっと動かず見ていると、一匹二匹、こちらに向かってきます。それでも動かずにいると私の目の先をかすめるように飛び去りました。きっとこちらの気配を感じて近づいてきたのでしょう。8月5日、半信半疑ながらキノコ沢まで下り 目にした光景です。時間は夜8時前後。近づいてきた蛍を手にして見ると、子供の頃長野で見たヘイケボタルより更に小さく感じました。小さく淡く儂い光です。私達の活動地で、年に一度 輝く命の光です。もしかして、私達の活動が蛍を 呼んだのかもしれない。

新田さんが最初に蛍を確認したのが8月2日。見頃は一週間ほどでしょうか。皆さんにも、どうしても見ていただきたいと思っています。(柴田 記)



◆ ヒヨドリさん、ごめん



8月17日、北海道神宮の側域林のニセアカシヤ刈取り作業中に工藤(光)さんが、鳥の巣を発見しました。デジカメで撮影。ヒヨドリの声やしきりでしたので、多分ヒヨドリの巣であろうと思いました。帰宅して図鑑で確認しました。ヒヨドリにちがいありません。ニセアカシヤを除去したので周囲の状況が変わり、カラスに見つかり易くなってしまいました。巣が放棄されるかもしれません。次回の作業時に観察するのが楽しみでもあります。(高野 記)